

## 平成 30 年 3 月の解説（週間天気予報）

### 【3月の天候状況】

上旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しました。低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、各地で大雨となったほか、1日は近畿地方と関東地方で、5日は九州南部・奄美地方で春一番が吹きました。また、8日から9日にかけて、北海道では記録的な大雨と急速な雪解けの影響で、低地の浸水や河川の増水などによる被害が発生しました。旬降水量は、北・東・西日本でかなり多く、北日本の旬間日照時間はかなり少なくなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、東・西日本や沖縄・奄美を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。日本付近を寒冷前線が南下し、大陸から一時的に寒気の流れ込む日がありましたが、日本付近は南よりの暖かい空気が流れ込んだ日が多く、東日本の旬平均気温はかなり高くなりました。

下旬は、21日から22日にかけて、低気圧が本州南岸を東へ進み、東北地方や関東甲信地方の内陸や山沿いを中心に大雪となった所があり、西日本では旬の前半にかけて寒気が流れ込みました。その後は、移動性高気圧に覆われて全国的に晴れた日が多くなりました。特に旬の後半は、南高北低の気圧配置となって南よりの暖かい空気が流れ込み、北日本から西日本にかけては気温がかなり高く、28日から30日にかけては各地で3月として記録的な高温となりました。旬平均気温は北・東・西日本でかなり高く、旬間日照時間は全国的にかなり多くなりました。

月平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、北日本と東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側と西日本で多かった一方、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、東・西日本と沖縄・奄美でかなり多く、北日本で多くなりました。降雪の深さ月合計は、北・東・西日本日本海側でかなり少なく、北・東・西日本太平洋側で少なくなりました。月最深積雪は、北日本日本海側で多いところが多くなりました。

### 【3月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、例年値<sup>（注）</sup>より12ポイント高い83%でした。各地方の適中率は、全ての地方で例年値よりも11～16ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7日目の平均）は、全国平均では例年値より0.2小さい2.4で、北陸地方と九州北部地方以外では例年値以下となりました。最低気温の予報誤差（2～7日目の平均）は、全国平均では例年並の2.2で、北海道地方、関東甲信地方、九州南部地方、沖縄地方を除く地方で例年値以上となりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は、日本付近が移動性高気圧に覆われて、広い範囲で晴れる日が多くなります。一方で、日本の南海上に前線が停滞するようになり、例年ではこの時期に沖縄・奄美は他の地方より一足早く梅雨に入ります。この前線が本州の南岸まで北上して停滞すると、西日本や東日本でも曇りや雨の日が続くことがあり、時には大雨となることもあります。天候に左右されやすい屋外の活動や行事を準備される際は、最新の週間天気予報をご確認ください。